

の読み、話した人の読みと、気持ちの読みとは関連があるようである。ただし、漢字の読みとは関連のすくないものもある。また、例外的なものも見られる。

イ 気持ちの読みは、いつも勝手な読みをするというのではなくて、その時々で変わるようである。

ウ また、これ等の読みは、情意的面、態度的な面とかかわりがあるのではなからうか。

### ⑧ 「みかんの木の寺」指導の留意点

#### — 調査をどう生かすか —

○ 漢字の指導については、読めなかったものをカードに書いて、さげておく。まとめの段階で書くことを主に指導する。黄色、毎日、楽などは、読みの中で、特にとりあげる。

○ 主語・述語の読み。これは、ほとんどの子ができているので、特にむずかしい文以外は、問題にしなくてもよい。

○ 書いてある通り読む。これは、30%強のものが、読み落したり、つけ加え読みをしている。ことがらごとにまとめて、確実によみ進めさせなければならない。

○ 会話からの 気持ちの読みとり。  
〈みかんの木の寺〉には、子どもたちの会話が多い。また、直接おしろうさんが出て来ての子どもたちとのやりとりは一回であるが、おしろうさんの、札に書いた文が4回でていて、この読みがポイントになる。

会話の部分からだけの、浅い読みになりがちの子や、ひとりよがりの読みをする子、また、ことがらを読みあやまる子などがいるので、注意したい。文章と、子どもの考えとを、よくたしかめていく。音読（朗読）も大事にしたいものである。

○ 「行動」からの 気持ちのよみとり  
「行動」の前後の文を注意深く読ませる。どんなことをしているのか、はっきりさせる。動作化させてみる。「行動」から、気持ちを想像す

ることは、むずかしいことである。できるだけその人物の置かれている状況、話のすじを明らかにして読み深めていくようにしたい。

### 2 〈みかんの木の寺〉の 読みの分析

#### (1) 登場人物を読みとる

下のような問題を用意し、一読後答えてもらった。

#### 一読して答える

◇ 〈みかんの 木の 寺〉を よんで  
こたえなさい。

1 この おはなしに でてくる ひとを  
かきなさい。

2 ぶんしょうを よんで、あとの とい  
に こたえなさい。

ある日、こう いて、いちろうたちが  
この 木の下に あつまりました。

「とって みようか」

「うん」

いちろうが、そっと 手を のばしました。

「こらっ」

と、そのとき、大きな 声が して、本どう  
の しょうじが ガラッと あきました。

お寺の おしろうさんが、うでまくりをし  
て、つつ立って いました。

みんなは、ばらばらと にげました。

(1) つつ立って いる おしろうさんは  
どんな きもちだと おもいますか。

(2) どの ことばから そう おもいま  
したか。

(3) みんなは、にげだして、しばらく  
いてから、どんな はなしを した  
と おもいますか。そうぞうして、た  
くさん かいってください。

3 「みかんの 木の 寺」の どんな  
ところを おもしろいと おもいま  
したか。

4 きもんに おもったこと、わからな  
いこと、しらべたいこと などが あ  
ったら かいってください。